



令和7年度 5月号 川口市立辻小学校

令和7年5月1日

辻小学校だより

学校教育目標

○学ぶ子（知）

○やさしい子（徳）

○元気な子（体）

子供たち一人一人に伝える力を育成するには

～「単語」ではなく「文」で伝えること～

校長 近藤 百合

「先生、トイレ。」「お母さん、水。」「底辺」などのように単語による会話は、早くて簡単なものの代表的なものです。「先生はトイレではありません。」や「お母さんは水じゃないでしょ。」という返答もよくある光景です。確かに「先生、授業中すみません。トイレに行かせてください。」と文で伝えるように子供たちに指導すべきだと思いますし、「お母さん、のどが渴いたから、お水をちょうだい。」と文で伝えられたら、親子の間にも渴きは生じないかと思います。先生が「平行四辺形の面積は、何と高さがわかっていると求められますか。」と問い、子供が「底辺がわかれば求められます。」、もっと丁寧に「平行四辺形の面積は、高さのほかに、底辺がわかると求められます。」など文で答えたらこの子は平行四辺形の面積の理解がきっと深まるでしょう。

本校は今年度から子供たちの伝える力を育成するために「国語科」を基盤とした校内での研修を進めていきます。伝えることはどの教科でも必要なことであり、自分がしたこと、考えたことを文で表現すること、つまり伝える力を育成することが重要となります。

文として伝えることは話すことだけではなく、観察や実験、見学して分かったことや考えたことを記録することやレポートにまとめたりすることも指します。また、式を立て、計算して答えを書くだけでなく、なぜそうなるのか、どうしてそれでよいか根拠を挙げて説明（証明）できるようにすることもこれにあたります。さらに、これまでに学習してきたことの似たことと結び付け、これもそうなるのかを考え、いくつかの例に共通することからこのようなことがいえると考え、すでに学習してわかっていることを理詰めで考え、筋道を立てて説明できるようにしていくこともそうです。

現代の子供たちはコミュニケーション力が不足していると言われていています。それは単語での伝え合いが日常化しており、相手に自分が伝えたいことが正しく伝わっていないからです。コミュニケーション不足によって様々な場面で相手との諍いを起こしてしまうこともあります。

文で伝えることは自然と相手に自分の考えをどのように伝えればよいのか内容をしっかり考えることが必要になります。つまり文で伝えることによって考える力をつけることができます。それは、コミュニケーション力の向上にもつながるのです。

大人が子供たちの気持ちを考え、子供たちに寄り添うことは大事です。一方でそれが過度になってしまうと子供たちの考え、伝える力を育成することができなくなります。学校では子供たちが自分の考えを伝えられるように授業の中で工夫、実践していきます。ご家庭でも地域でも子供たちが考える力がつくように子供たちが文で伝えられるように意識していただければ幸いです。

辻小学校のホームページを是非、ご覧ください。

学校の教育活動等随時、更新しております。「辻小学校」で検索いただくか、右のQRコードからも、閲覧することができます。

子供たちの日常的な学習の様子もご覧ください。

学校ホームページ <http://tujisyou.official.jp/>

